

若手教師パワーアップセミナー「元気が一番」塾

2008 夏季セミナー

日時 2008年(平成20年)8月9日(土) 10:00~17:00 (受付 9:30~)

場所 兵庫県民会館 3F(303) 神戸市中央区下山手通 4-16-3 TEL078-321-2131

日程 10:00~10:10 開会挨拶

★10:10~11:40 第①講

「子ども」と「本」と「学び」をつなぐ ~心の扉をひらく本との出会い~

ゲスト講師 曲里 由喜子(まがり ゆきこ)

★13:00~14:30 第②講

今、子どもたちに伝えたいこと ~ディズニーの精神から学ぶ~

ゲスト講師 大路 亨(おおじ とおる)

★14:45~16:15 第③講

あの子の目がキラキラ そんな授業づくりを ~支え合う仲間たちの軌跡~

講師 仲島 正教(なかじま まさのり)

16:15~17:00 質疑応答、閉会挨拶

※ 講師紹介

- ・大路 亨 元 西宮市立北夙川小学校長。西宮市教育委員会学校保健課長等歴任。
校長時代「温もり」を学校教育目標に掲げ、教師・子ども・保護者・地域を温かくつなぐ学校経営を行う。「人は自分を大切にしてくれる所に戻ってくる」というディズニーの精神を生かした教育を実践。どんなやんちゃな子も大路先生を慕い、あいさつをし、踏みつけていた靴のかかとを踏まなくなっていく。
- ・曲里由喜子 現 西宮市立広田小学校司書教諭。手塚山学院大学(大阪・堺)臨時講師、元放送大学司書教諭講座講師。曲里先生の学校では、読書週間が読書習慣に変わっていき、本の貸し出し数は倍増。本なんか嫌いという子どもが本を読み始めるのである。「はじめはガサガサしていた子でも、毎日続けていくと次第に耳を傾け、目を輝かせてくる」曲里先生の聞かせ読みは、魔法の声である。
- ・仲島 正教 現 若手教師パワーアップセミナー「元気が一番」塾主宰。元西宮市内小学校教諭(21年間)西宮市教育委員会指導主事(5年間)。2005年3月に48歳で退職し、その後、教育サポーターとして「元気が一番」塾をはじめ、全国各地で講演や研修を行っている。「教師の仕事はしんどいけど楽しいもの」「教師は子どもの未来への応援団」そんなメッセージを伝えたいと思っている。

子どもと本と学びをつなぐ

— 心の扉をひらく本との出会い —

はじめに

広田小学校図書館

子どもと本と学びをつなぐ

- ・ 学校図書館を核とした学校経営 <資料①>
- ・ 司書教諭として子どもたちとかがわって
- ・ 家庭読書・・・「読書週間から読書習慣へ」 <資料②>
- ・ 学校図書館ボランティア「スマイルママ」の活動に
支えられて・・・いつも人のいる温もりのある図書館

1 本との出会い

読み聞かせと聞かせ読みが一番の早道

美しいことばのシャワー

- ・ 読み手と聞き手の心のふれあい
- ・ 耳から聞く読書体験の大切さ
- ・ 「本が読める」と「本が好き」はちがう <資料③>
- ・ 子どもにとって読書とは <資料④>

2 みがかれる感性

絵本の時代は心を育てる時代

心のとびらを開く絵本の役割

- ・ 「行って帰る」型（ハッピーエンド）の物語をたっぷり
- ・ 「ことば」をとおして人を愛し、愛される人間に
- ・ セルフ・エスティーム（自分を好きになる本）
- ・ 人権の学習に絵本を使おう <資料⑤>

3 学びの基礎基本

「読書トレーニング」で心のとびらがひらく

子どもが変わる読書感想文

- ・ だれもが書ける読書感想文・・・手だてをしっかりと
- ・ だれもが書きたいと心が動く子どもたちに
- ・ 心の奥に眠っている感情が開花

*DVD「豊かな学校づくりのために」 広田小学校の実践

おわりに

『今、子どもたちに伝えたいこと』

～ ディズニーの精神から学ぶ ～

大 路 亨

私たちは、毎日「どんな気持ち」で、子どもたちに接しようとしているのだろうか？

□ 我輩は、「じじい」である。

- ★ 自分の一番身近な一番大切なものが、本当に見えているのだろうか？
- ★ 一生かかってやりたい「好きなこと」が、本当にあるのだろうか？

□ 我輩は、「じいーじい」である。

- ★ 孫からの伝言です

□ 企業から学ぶ。

- ★ 「感動」とは？
- ★ ディズニー、リッツ・カールトンとの出会い
- ★ ディズニー、リッツ・カールトンでの「感動」
- ★ 「感動」を生む「おもてなし」への努力
- ★ 「おもてなし」の心得を、学校園という場に
資料1) 企業における「ホスピタリティー」の心得から学ぶ
- ★ 毎日どんな気持ちで子どもたちに・・・
資料2) 教師としての自己点検表

□ 「人は、自分を大切にしてくれるところに戻ってくる」

<ウォルト・ディズニー>

《 「元気が一番」塾 夏季セミナー H20.8.9 》

あの子の目がキラキラ そんな授業づくりを ～支え合う仲間たちの軌跡～

仲島 正教

(<http://www2.bbweb-arena.com/naka602>)

1. 授業のうまい先生になること

- ・授業のうまい先生は「熱意」もあるし「元気」だし「一生懸命」だし「生徒指導」もうまいし「優しい」。そして何より「子ども理解」がしっかりしている。そして「学級づくり」もうまい。つまり授業がうまくなるということは、教師としてのあらゆる条件も成長するということである。だから授業づくりはもっとも大切な修業である。

2. 授業づくりは教師の原点

- ・子どもは授業で必ず変わる、子どもは授業で育てるもの
- ・授業づくりと学級づくりは両輪である。授業づくりを通して学級をつくり、学級づくりを通して授業をつくる。
- ・授業の下手な先生はダメ！でも努力すれば、必ずうまくなる。だからがんばるのだ。

3. 学級で一番厳しい立場の子が生き生きする授業づくりをしたい

- ・まずはあの子この子を知ることから。
授業づくりは子ども理解に始まり、子ども理解に終わる。
- ・人権教育の視点に立った授業づくりとは、一人ひとりが生き生きする授業であり、それは、クラスで一番厳しい立場の子が生き生きする授業のこと。

4. 「あの子の目を輝かせたい！」～4年体育「ゴールパスゲーム」の実践より～

①先天性下肢障害のYさんは、体育の授業はできないのか

「どうせ私にはできない」・・・そんな気持ちを吹き飛ばしたい

②Yさんに気持ちよくシュートを打たせたい、既成の教材？ それとも・・・

どんなゴールなら打てるのか、バスケット？ハンドボール？サッカー？

③学習のめあては「よいチームづくりをしよう」

問題点に出合ったときには、必ずこの「めあて」にかえる

④チームは、男女混合の生活班。

体育だけではなく、すべてに広がる学習にしていく

⑤時間は十分にとる、それが子どもを育てる近道

カリキュラムに子どもを合わせるのではなく、子どもに合わせてカリキュラムはできる

⑥Yさんの成長、そして周りの子どもたちの成長

あの子の目を輝かすことは、全員の目を輝かせることにつながる

⑦俺たちは、なかなかやるな。いいクラスになってきたぞ

授業で学級はつくりだされていく、授業で子どもは自尊感情をもち、未来を見るようになる

5. 「私もあんな授業がしたい」・・・ 教え子からの最高のプレゼント